

令和6年度第2回三浦半島地区保健医療福祉推進会議

開催日時：令和6年12月3日(火) 19時00分～20時05分

開催方法：オンライン

(事務局)

定刻となりましたので、三浦半島地区保健医療福祉推進会議を始めさせていただきます。本日はお忙しいところ、ご出席くださりありがとうございます。

私は鎌倉保健福祉事務所、企画調整課長の安田でございます。

本日の会議は、Webでの開催となります。通信環境などの影響を最小限にするためマイクの音声は基本ミュートにしておいてくださるようお願いいたします。

ご発言をされる際には、会長から指名された後に、ご所属とお名前を発言いただいてから、ミュートを解除してご発言ください。また、発言の後ミュートに戻してくださるようお願いいたします。なお、本会議の写真撮影、ビデオ撮影、録音録画そういったことはできませんので、ご了承くださいるようお願いいたします。

本日も欠席のご連絡をいただいております委員の方ですが、神奈川県医師会理事の磯崎委員、湘南鎌倉総合病院長の小林委員、横須賀労働基準監督署長の中村委員、横須賀市福祉こども部長の藤崎委員の4名からご連絡をいただいております。

また、鎌倉市健康福祉部長の鷲尾委員につきましては、代理として市民健康課長の石黒様にご参加いただいております。

続きまして本日の配付資料でございますが、事前にメールでお送りした通りでございます。

それでは、推進会議設置運営要綱第7条第1項によりまして、本日の議事の進行を三屋会長にお願いいたします。

(三屋会長)

皆さんこんばんは。横須賀市医師会の三屋でございます。

それでは初めに会議の公開についてです。この会議は原則公開とし、非公開とすべき情報を扱う場合には、議題により一部非公開とさせていただきます。

なお会議録につきましては、これまで通り、発言された委員名を記載の上、発言の概要を掲載し、公表させていただきますがよろしいでしょうか。

(了承)

(三屋会長)

それでは協議事項に入ります。事務局においては、十分な議論の時間を確保するため説明を簡潔にお願いいたします。なお本日の協議事項の1、令和5年度病床配分に関わる入院料等の変更については、葉山ハートセンター様から説明をいただく予定でございますので、飯田院長が参加されています。

それでは、協議事項の1についてです。この件に関して、当地域の第1回の推進会議において、

葉山ハートセンター様からの変更の申し出を取り扱いました。地域としては賛成との意見を多くいただきましたが、変更する場合の全県のルールをあらかじめ定めておくべきとの意見を受けて、9月の県の保健医療計画推進会議で議論がなされました。この点について、事務局から説明をお願いいたします。

<「病床整備事前協議により配分を受けた病床の入院料等の変更の取扱い」医療企画課説明>

(三屋会長)

はい。ありがとうございました。こういった事情から今回は葉山ハートセンター様にご出席をいただき、変更に至った経緯や変更した場合のメリットなどについて改めてお話をいただきたいと思っております。このことについて事務局から説明をお願いします。

<「令和5年度病床配分における算定病床の変更」鎌倉保健福祉事務所説明>

(三屋会長)

それでは、葉山ハートセンター様からご説明をお願いいたします。

(葉山ハートセンター飯田院長)

こんばんは。今回我々の勉強不足、認識の不足により、お手間をおかけしまして大変申し訳ございません。葉山ハートセンターの飯田と申します。今回お願い申し上げました、回復期病棟の区分の変更についてご説明申し上げます。当院は、2000年に心臓専門病院として開設し、当初は心臓以外の疾患の診察は行わず、地域の方々にとっては、受診する機会の少ない病院でした。

一方、逗子葉山地区は急性期の病院がなく、多くの患者さん、救急患者さんが、逗子葉山の地域外に搬送されています。そこで当院は、2016年から内科常勤医が勤務して、その後脳外科の常勤医が勤務し、次第に地域の病院としての機能を増やしていきました。今年、令和6年4月からは外科の常勤医を2人増やして3人にしまして、腹部救急手術にも対応できるようにしました。お受けする救急車も昨年は1年間で1100台お受けしたんですけども、今年は10月末で1100台、去年の1年分を超えるような形になります。

そこで分かってきたことですが、逗葉地区は高齢化率が高く30%を超えています。それから、老人施設も多く、例えば、本年11月、先月で1ヶ月206人の入院患者さんがいたんですけども、平均年齢が74.9歳でした。手術のための外科手術の入院とかを除けばさらに高齢になります。そのような患者さんの多くは特定の疾患があるわけではなくて、体が衰える中で誤嚥性肺炎とか、尿路感染を起こしている患者さんが多くいらっしゃいました。

このような方に治療を行って、地域の生活に戻るということを目指すためには、訪問診療、訪問看護、それから老人施設、デイサービスなどとの一体になった対応が必要であり、そのためには地域包括ケア病棟がより地域の実情に合っているのではないかと、というふうに認識するに至りました。また、老老介護を行っているご家族も少なくなく、介護者が病気になったなどの理由でレスパイト入院を希望する患者さんも、一定数いらっしゃいました。以上のような理由で、区分

の変更をお願い申し上げた次第でございます。本日はお時間をいただきまして、誠にありがとうございました。ご審査のほどよろしく願いいたします。

(三屋会長)

はい、ありがとうございました。

ただいまのご説明について何かご意見、ご質問等ございましたら、挙手なり、ご提案をお願いいたします。大丈夫でしょうか。はい、小松先生お願いします。

(小松委員)

神奈川県医師会の理事をしております小松と申します。

今飯田先生からご説明いただいたことですが、やはり病床配分ということについては、限られた時間の中で手挙げをしてくださいってということで、どの医療機関さんもどの法人の方も検討して決断する十分な時間がないというところは分かります。

ただ、実際この地域でも、手挙げをした複数の医療機関の中から、地域のこの会議で了承された、葉山ハートセンターさんが回復期リハビリテーション病棟をやるということで選ばれた、というその事実に関しては、やはりそんなに軽いものではないと思うんです。年度末に病床の配分が決まりまして、おそらく2年後ぐらいには新しい病棟がオープンされるってということだと思うんですけども、その中で、回復期リハビリテーション病棟が配分されたわけですから、リハのスタッフを増やしていくとかそちらの方向を目指すのが、おそらく手挙げをしたこととの整合性だと思うんです。

ただ、現場の先生方からのご判断というか、現場の状況も含めれば、むしろ何で最初に回復期リハで手を挙げたんだらうと。次、自分の病院の目指す方向性は、むしろ地域包括ケアではないのかという、もしかするとその現場の先生方の思いや、患者さんの流れと、全体のグループさんの中での判断が乖離しているということがあると、やはり今後の病床配分に関して、こちらもそのところを十分に考慮しなければいけないというふうに思っています。

例えば、手挙げして認められたけれども、協議をした結果、地元の中です了承ということであれば安易な変更を認めていいのかどうかということ、本来手挙げしたこととは違っていると、ただ大きく分ければ同じ回復期機能だということ、行政の読み方からするとそうだと思うんですけど、やはり病床を選ぶときに、同じ回復期機能といっても我々がこの会議の中では回リハで選んだということは、くれぐれも忘れていただきたくないですし、今後も病床配分はいろんな地域で出てくると思うんですけど、グループさんの中で、十分に現場の整合性と実現性をよくよく検討していただいて、短い時間の中でもそんなに簡単に、オープンする前の変更というのは、やはり感覚的に言うところとあり得ないという印象もありますので、そういうことがないようにくれぐれもお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

(三屋会長)

小松先生ありがとうございました。他にご意見ご質問等ございましたら、どうぞ。

大丈夫ですかね。ここで今日決めなきゃいけないのだと思うのですが、小松先生、これ了承させてもよろしいでしょうかね。

今回ここで了承するかしないか、決めなければいけないかと思うんですが。他にご意見は。

(小松委員)

僕、個人としては、基本的にはやはりこの変更というのはどうなんだろうという、正直そういう思いはあります。

一方で、行政としては、これはOKという判断をされているということも了解していますし、全員賛成でなければいけないかという、そうではないですし、あとは、おそらく現場の感覚としては葉山ハートセンターさんが、地域包括ケア病棟で頑張っていて欲しいという、そういう思いがあることだと思いますので、変更自体はあまり好ましいものではないけれども、やり方がですね、ただ現場としてはよしとしようというご意見なのかなというふうに私は思っていますので、これ以上1人で騒ぐつもりはないです。

(三屋会長)

わかりました。現場に近い山口先生お願いします。

(山口委員)

はい、ありがとうございます。

このエリアは以前にも病院を建てるといような話がありまして、実際それが流れているということがあって、特に急性期の病床が全然ないエリアですので、救急隊が、特に葉山からの救急が、鎌倉の方、横須賀の方あちこちに送らなければいけないということで、大分疲弊されているような様子も見られます。そういったことも含めまして、できたらハートセンターさんに、完全な慢性期ということだけではなく利用のしがいのあるような病床として、今回のような形で持っただいた方が、地域としてはいいのではないかというふうに私は思います。以上でございます。

(三屋会長)

山口先生ありがとうございます。現場の声は実はそういうことですね。他にどなたかいらっしゃいますでしょうか。田嶋先生どうですかね、立場としても、逗葉会長の田嶋先生は何かご意見ございますか。

(田嶋委員)

田嶋です。小松先生がおっしゃるのもすごくよく理解できますし、ただ、今ハートセンターが救急も積極的に受けてくださって、ベッドが足りない状況というのはもう十分理解できますので、救急というか、高齢者の救急も診ていただいて回復期も見ていただく、というような形で包括ケア病棟で頑張っていただければいいのかというふうには思います。はい。以上です。

(三屋会長)

田嶋先生、急に振って申しわけありませんでした。ありがとうございます。現場の声としては変更を認めていいのではないかという感覚は私も受けております。

他にご意見なければ、現場の声を中心としてそれを汲み取りまして、了承したいと思います。どうでしょうか。何かなければ、了承させていただきます。

(了承)

(三屋会長)

どうも、ありがとうございます。

では、葉山ハートセンター様はご退出して結構でございます。

はい。皆さんありがとうございます。

次にですね、2、有床診療所の2040年に向けた医療提供プランの策定状況について、事務局から説明をお願いいたします。

<「有床診療所の「2040年に向けた医療提供プラン」の策定状況」医療企画課説明>

(三屋会長)

はい、ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして何かご意見ご質問等ございましたらよろしく申し上げます。ないでしょうか。まだ回答率が半分ぐらいなので、次回またあるのですよね、この説明は。

意見がなければ次に進めさせていただきます。

協議事項の3番ですね。三浦半島地区保健医療福祉推進会議傍聴要綱の改正についてです。事務局から説明をお願いいたします。

<「三浦半島地区保健医療計画推進会議傍聴要領の改正」鎌倉保健福祉事務所説明>

(三屋会長)

はい、ありがとうございます。ただいまのご説明につきまして何かご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。何かご意見等ありませんか。

Web会議も増えることですし、時代の流れかなと思いますので、これは了承したいと思います。よろしいでしょうか。

(了承)

(三屋会長)

はい。それでは、当会議としては、了承することにいたします。

次は、2の報告事項に移らせていただきます。1番、令和6年度病床整備事前協議について事務

局から説明をお願いいたします。

<「令和6年度病床整備事前協議」医療企画課説明>

(三屋会長)

はい、ありがとうございました。

ただいまの説明につきまして何かご意見ご質問等ございましたらよろしくをお願いいたします。大丈夫ですかね。

それでは次、2番、定量的基準による分析結果とデータ分析事業について、事務局から説明をお願いいたします。

<「定量的基準による分析結果及びデータ分析事業の実施」医療企画課説明>

(三屋会長)

はい、ありがとうございました。

ただいまの説明につきまして何かご意見ご質問等ございましたらよろしくをお願いいたします。ないようであれば、次に進ませていただきます。

次に3番、県の補助事業における地域包括医療病棟の取り扱いについて事務局から説明をお願いいたします。

<「県の補助事業における地域包括医療病棟の取扱い」医療企画課説明>

(三屋会長)

はい、ありがとうございました。

ただいまの説明につきまして何かご意見ご質問等ございましたらどうぞ。大丈夫ですかね。補助事業の話ですけど。

それでは次に進ませていただきます。次の4番。医療介護総合確保促進法に基づく令和6年度神奈川県計画策定の概要、参考資料の2-1、2-3ですが、この部分の説明は省略させていただきます。

何かご意見ご質問等ありましたらお願いいたします。

はい、なければ最後に3 その他ですが、事務局から何かございましたらお願いいたします。

(事務局)

事務局でございます。

次回の当地域の第3回目の会議の開催予定でありますけれども、1月29日水曜日を予定しております。

改めまして事務局の方から、委員の皆様にはまたメール等でお知らせをさせていただきますので、できましたらご予定くださるようお願いいたします。以上でございます。

(三屋会長)

はい、ありがとうございました。ということですので皆様1月29日、よろしくお願いいたします。

本日は、円滑な議事の進行にご協力いただきまして誠にありがとうございました。今後とも、地域医療構想の推進に向け、ご協力をお願いいたします。

それでは、進行役を事務局へお返しいたします。

(事務局)

三屋会長、どうもありがとうございました。

以上で第2回の推進会議を閉会させていただきます。今後とも引き続きご協力くださいますようお願いいたします。